

# 一般質問から

## 地域住民の声にしっかりと耳を傾けた対応を

日本共産党議員団 飯田 敏勝



問) 医療用廃棄物焼却施設は、事業者が中園地区、明治地区に打診し住民の反対で断念したが、6月に中園地区に住民との協議もなく道に協議書を提出した。道の指導指針に合致とはいえ、住民無視も甚だしい。地域は設置予定地が自然や生活環境の面から不適地としている。今議会に陳情が上がっているとおり、環境・風評・観光などの安心、安全に関して中園地域のほか、多数の地域や農業、漁業団体の設置反対の意思は相当に重いと思う。市の対応と市長の見解はいかがか。

答) 施設の安全性が確保されれば、地域にとって必要な施設と認識しているが、広範な地域と農業・漁業団体から設置反対の意向がある以上、理解を得られるよう努力が必要である。

問) 反対住民は、道の指導要領にある「地域の生活環境に配慮しての地域の理解を得る」との事から不適地としてほしい陳情です。安心・安全の生活をサポートするのが行政ならば、もっと住民の立場で吟味したらどうか。

答) 今回の施設は全く不要とは思わないが、建設にあたって様々な配慮があっただけで、地域の反対が強いのので、必ずしも適地とは思えないと意見を述べている。

## 19年度の予算編成と指定管理者制度の検証は

民主市民ネット 山田 庫司郎



問) 18年度の予算執行状況及び決算見込みは。

答) 市税については、おおむね当初予算を確保できる見通しにある。交付税及び臨時財政対策債は前年比約1億5千万円程度の減となるが、当初予算との比較では約1億6千万円の増になり、厳しく見ていたこともあり予算的には確保された状況である。

また、歳出では順調な執行状況であるが、5億2千万円の基金取り崩しを必要最小限となるよう努力する。

問) 19年度の予算編成をどう考えるのか。

答) 国の予算編成方針と地方財政対策が示されていないが、厳しい財政状況は予想される。第2次行政改革の着実な実行と、市民の満足が向上する行政運営と持続可能な財政の構築に努め、産業の振興、福祉や介護のほか市民生活に密着した施策に配慮した予算編成をすべき。

問) 指定管理者制度の実施施設の市民サービスは、雇用の状況は、管理費は適正かなどの検証は。

答) 現在のところ管理運営については、適正な状況にあり特段の問題はない。また、管理者や必要に応じ利用者との協議も行っており、今後も関係者との連携を図り、十分な検証を行っていききたい。

## 議員研修会を開催

平成18年度の「網走市議会議員研修会」を8月7日、網走セントラルホテルにおいて行いました。

この研修会は網走市議会議員会（奥出宣勝会長）の主催によるもので、今回は講師に全国市議会議長会法制専門 水出豊氏を迎え、「地方分権における市議会のあり方」について研修しました。

研修内容は①地方自治法等改正の論点および概要②議会の役割、権限、権利、義務③委員会の役割など大きく3点でした。特に自治法の一部を改正する法律案では行政のチェック機能である議会の役割・権限が強化されたことが特徴です。

具体的には地方の自主性・自立性の拡大を図るための措置や、議長への臨時会招集請求権の付与、議員の複数常任委員会への所属制限廃止など、議会制度の見直し案も盛り込まれていることから、各議員ともに関心が高く、有意義な研修となりました。



## 西防波堤の今後の整備と児童生徒の安全確保

夢みらい倶楽部 水谷 洋一



問) 歴史的にも大変貴重な土木構築物と思われる、帽子岩のケイソンドッグへと続く、西防波堤は、大正8年に着工され、およそ90年近くの歴史を刻んで現在に至っている。その西防波堤が、大変老朽化しており、時折、越波している状況にもある。防波堤の老朽化という現状のもと、帽子岩や川筋左岸との景観、また、特にまちづくりという観点から、西防波堤の整備または改修をすべきと考えるがどうか。

答) 現在国の助言を得た中で老朽化対策を検討しており、今後、全面改良を前提とした整備計画づくりに取り組まなければならないと認識している。川筋全体の景観、みなと観光の推進に配慮した部分改良も視野にいれ、整備に向け努力したい。

問) 携帯電話を学校に持たせて、子どもの安全確保を図ろうという家庭が増えている。学校での所持に当たって市教委はどのような取り扱いを行っているのか。

答) 学校への持込は原則禁止しているが、持ち込みには保護者と子どもと学校のルール作りが必要だ。校長会と協議してルールづくりを図っていききたい。

九月に開催されました第三回定例会会議録については、十二月上旬に完成する予定です。(ホームページでもご覧いただけます。)